

つくしだより



令和元年7月号

東京都精神保健福祉家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション301

TEL/FAX:03-3304-1108

http://www.ttsukushi.sakura.ne.jp/

発行者 眞壁 博美

2019.7.15 第348号

2019年度 東京つくし会

評議員会報告

都連副会長 中住 孝典

令和になった初年度の東京つくし会・評議員会が6月21日(金)行われました。来賓として都議会厚生委員長・栗林のり子氏(都議会公明党)都民ファーストの会都議団長・大津ひろ子氏 都議会公明党議員団長・中嶋義雄氏 都議会自民党政務調査会副会長・清水幸治氏 日本共産党都議会議員団・とや英津子氏 都議会立憲民主党・民主クラブ幹事長・中村ひろし氏 無所属都議会東京みらい幹事長・奥澤高広氏 都議学生会者ネットワーク幹事長・山内れい子氏 都議会自由を守る会幹事長・上田令子氏 東京都福祉保健局施策推進部精神保健医療課長・梶野京子氏 東京都手をつなぐ育成会副理事長・森山瑞江氏 NPO法人東京都自閉症協会理事・田中由佳氏みんなねっと事務局長・小幡恭弘氏東京つくし会相談役・野村忠良氏がご出席くださいました。まず平成30年度の事業活動報告が眞壁会長よりありました。①マル障の実施が精神障害者手帳1級所持者に適用され他障害者との障害者福祉制度の格差是正が一

歩前進したこと、更なる精神障害者福祉制度の充実のため、「東京マル障の会」を「みんなの精神保健福祉東京推進会議」に改め活動を展開していく事②都議会各政党・会派へのヒアリング活動の中で小池都知事の来賓要請が実現した事③「みんなねっと」と共に交通運賃割引制度の精神障害者への適用を求める活動を進め平成30年9月にJAL、ANA等の航空事業者が精神障害者への適用が実現した事④家族会の存続発展、リーダーの育成支援に向けて都連が各家族会を訪問し都連と単会の関係が密になるよう努めた事⑤「つくし便り」の内容充実・ホームページの活用により広く都民に精神保健福祉の啓発を行った事⑥当会の財政の現状と課題を明らかにし今後の財政基盤安定のための議論を深めた事などが報告されました。平成30年度会計報告は安藤会計担当理事が、会計監査報告は苛原真也・松尾鉄也両監事から報告があり活動報告を含め全てが承認されました。2019年度の事業活動計画案が植松副会長から①差別のない社会の実現に向けた取り組み②障害者雇用に対する権利保障や質量を含めた条件整備への取り組み③隔

離・身体拘束の問題、精神科特例の廃止など精神障害者の人権を守る取り組み④家族会の継承問題や家族会がない地域の家族会設立支援に重点的に取り組む事⑤当会の財政基盤の安定に向けた具体化の推進等が提案されました。厳しい財政状況の中で予算案も示され、いずれも承認されました。その後の自由意見では①当会の家賃比重の大きさに対する今後の見通し②家族会に対する行政の支援要望等多くの意見・質問が出されました。なお、監事の松尾鉄也氏が退任されました。ありがとうございます。

2019年度東京つくし会 役員

(敬称略)

会長 眞壁博美

副会長 植松和光 本田道子

理事 轡田英夫 中住孝典

理事 安藤万寿代 大山竹彦

川崎洋子 松沢勝

小澤輝江 鬼頭博子

池田正

監事 苛原真也 鳥山克宏

相談役 羽藤邦利 野村忠良

宜しく願います。

2019年度都民精神保健啓発シンポジウム

「誰でも安心して住める地域社会」―当事者、家族、支援者が共に考える仕組み―

(6月21日金曜日・烏山区民センター)

都連理事 鬼頭 博子

精神障害者当事者会ポルケ代表の山田悠平さん、東京都精神保健福祉家族会連合会理事の川崎洋子さん、杉並区障害者地域相談支援センターすまいる荻窪の高村裕子さんが、それぞれのお立場から、地域で誰でも安心して暮らせるため、をテーマにお話ししてくださいました。尚、コーディネーターはやどかりの里常務理事の増田一世さんです。

山田さんは当事者交流の場「ポルケ」を主宰し、また当事者たちの声を発信し、啓発研修、行政・議会・関係機関との懇談や要望など幅広い活動をなさっています。

大田区の障害者実態報告から、生活における不安や困りごとのアンケートの結果報告では、当事者たちの一番の心配が経済的な問題で、親亡き後の心配が4番目と言う結果に、親亡き後ばかりが気になる家族の思いとは少し違った結果に驚いたり納得したり、私にとっても新鮮な驚きがいっぱいでした。

川崎さんのお話は、高齢化する本人と家族の問題、同居、している家族の悩み、そして



てくださいました。

また大田区での活動例として、大田区精神障害者家族連絡会(通称大田つばさ会)が地域の福祉法人や民生委員、町内会、商店街などの方々と運営している「コミュニティスペース(CS)にしかまた」(喫茶&軽食)の報告がありました。「街の駅にしかまた」を受け継ぐ形で始めたオープンカフェは今年4年目に入り、地域の中の居場所として定着しています。

スタッフは当事者メンバーと私達家族がウエイター&ウエイトレスになりきり、老若男女さまざまなお客様に対応しています。時にカレーとハヤシを間違えたり、注文を聞き違えたり、何をするのか考え込んだりと、ま

家族が安心して利用するための「利用できるサービス・制度」のこと、地域で普通に暮らすにはまず、家族・本人の隠さない生き方と、困ったときは地域の人に支えてもらう暮らし方などを語られ、私達家族に気付きと勇気を与え

あ、そんな場合はほとんどが家族スタッフで、メンバーたちの支えがなければやっていけないという現状も、笑い飛ばして許していただいています。「認知症スタッフ？」と言う陰口なんかも聞こえなくいい聞こえなくいい、毎日楽しく働かせていただいています。

高村さんは荻窪で暮らす障害者の状況、各社会資源の連携と協力体制の重要性、そして支援者とは「押し付け合う」のではなく、「互いに引き受ける」姿勢で、点ではなく面で支援していく体制づくりの大事さを説かれました。

質疑応答は当事者や家族から忌憚のない意見があり、答えに窮することもありました。皆さん親切に丁寧に質問に答えてくださいました。

13時半から16時まで定員120名の席は満席で、特に「当事者の話」を聞きたかった、という参加者の声が多く印象的でした。小さな集まりでも、今後こう言った交流をどんどん増やして続けて行ってほしいと思います。



蒼空会定期総会に参加して

都連会長 眞壁 博美

5月24日(金)の午後、清瀬けやきホール
のセミナーハウスにおいて、第32回定期総会
が開催され、私もお招き頂きました。参加者
は来賓も含めて53名。来賓には、清瀬市と東
久留米市の行政や議員、関係団体の方々が多
数出席されました。

蒼空会が関係するどんぐりグループは、現
在、東久留米・清瀬・所沢の3市において24
事業所を展開しています。しかし、現在の事
業所は通所して、はじめてサービスが受けら
れるのです。地域には、通所したくてもでき
ない方々が大量おり、「アウトリーチセンタ
ー」開設という目標に向かって具体的に準備
を進めています。その計画の一環として、今
年4月より「る・ぐらん」という訪問看護ス
テーションが東久留米市に開設されました。

総会後は、「る・ぐらん」の責任者の方か
ら、この訪問看護ステーションの説明があり、
家族や当事者の様々な質問に丁寧に答えて
くださいました。

① スタッフは、看護師3名、事務兼薬剤師1
名でスタートしました。

② 訪問看護は、最低1時間は時間をかけて話
し合っています。

③ クライシスの時にいきなり行くではなく、
本人と話し合っていきます。

④ なるべく、すぐに入院させるだけでなく、
落ち着ける部屋に泊まらせて付き添いを
します。

⑤ 入院させた場合でも、訪看で病院訪問する
こともやっています。

⑥ 退院後、3か月までは、週5回入ることが
できます。回数は、その時々状況に応じ
て決めていきます。

このことで、当事者や家族が安心できる取
り組みがされていくことを期待しています。



府中梅の木会家族会を訪問して

都連副会長 植松 和光

6月8日(土)午後1時30分から開催され
た府中梅の木会家族会の総会に参加させて
いただきました。

会場への道は府中けやき並木どおりを小
金井市方面に向かい徒歩5分くらいのとこ
ろにある府中市ふれあい会館でした。

けやき並木どおりには江戸時代初期から
のけやきの老木やカエデなどが道路の両側
に植えられており、まさに緑のトンネルでし
た。

総会には、大勢のご家族や府中市議会議長

を始めとする議員の皆さん、地元の就労支援
事業所の所長さんが参加され、地元との連携
ぶりを見るのがきました。府中梅の木会は
相談事業に力をいれており、2018年度は
204件もの相談を受けています。また、当
事者の交流の場を設け年間325人の方の
利用があったそうです。それから、驚いたの
は家族のためのシェルターを年間を通じて1
室確保して家族の緊急時避難に対応してい
ることが報告されました。家族会が行って
いる緊急避難場所は都内でも府中梅の木会を
含め2か所しかなく、なんとも心強く感じま
した。総会ではそのほかにも沢山の事業報告
や会計報告と2019年度の活動計画等が
承認されました。

会長には野村忠良氏が選任されました。

総会終了後、居酒屋で親睦交流会が行われ
皆さん日頃のご苦労話や家族会の活動につ
いて和やかに話され、楽しいひと時もあつと
いう間に終わりました。梅の木会の皆様お疲
れ様でした。今後ますますのご健闘をお祈り
しています。



精神障害者の交通運賃割引の

「請願」衆参両院で採択されました

都連副会長 植松 和光

「JRや民間鉄道等の交通運賃割引制度を精神障害者も対象とすることを求める請願」が、衆参両院の国土交通委員会で6月26日に採択されました。2016年5月13日、に162名の要請団が全国から集結、62万余筆請願書を持参しての国会請願行動から4回目となる国会請願が衆参両院でようやく採択されました。この画期的な成果を契機に、JRをはじめとする旅客鉄道、高速道路、旅客船などの交通事業者が一日も早く、他の障害者と同様の実施を求めていきますように。

この請願は「みんなねっと」が全国の家族会に呼び掛け、行ってきたもので、東京つくし会も、衆議院には松本文明議員（自民党）と参議院には竹谷とし子議員（公明党）に紹介議員になっていただき6月6日に請願書を提出しました。

また、都連としても各単会に区市町村議会から衆参議長あてに「JRや民間鉄道等の交通運賃割引制度を精神障害者も対象とすることを求める」意見書を提出してもらおう活動をすすめ、大きな力となりました。

都連としては、今後、東京にある民間鉄道会社やJR東日本等に単会の皆様と共に要請活動をしていくための方針を決めていきます。



講演会のお知らせ

☆8/10(土) 13:30~16:00 統合失調症の基本的理解と最新治療
講師: 国立精神・神経医療研究センター病院 医師 佐竹 直子 氏
会場: 小平市福祉会館 申込不要 先着40名
主催: 小平市けやきの会 ☎042-343-4559

☆9/14(土) 13:30~16:00 みんなでやろう家族SST~あなたの力が家族を変える~
講師: SSTリーダー 向川原 聖名子 氏
会場: 小金井前原暫定集会施設 申込不要 先着50名
主催: 小金井あじさい会 ☎042-388-3729

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。



編集後記

我が家には、主人顔したセセがおります、セセは11歳になるオスのパグです。色は黒ですが、最近はい主に似てきたのか、あちこちに白髪が目立ちます。躰は飼い主に似てダメです。餌はphコントロールの犬用食事療法食です、獣医師指定の特別食です、飼い主より健康的食事かと思えます。否、確実に飼い主より食事は高くついています。

体重は少し太目にみえますが、7kgを目標に管理しています。朝起きると、散歩を要求して騒ぎます、二階から私が降りてきます、首輪にフックをかけられて外にでかけます、飛び跳ねてオヤツをねだります。オヤツはカツオマグロ小魚の棒状のチップです、朝の散歩中にオヤツで元気を造りながら、1時間の散歩を努めます、途中で猫友に挨拶、猫友にもオヤツをプレゼントします、猫友は二匹、名前は知らない、黒猫と虎毛なので、クロと虎と呼んでます、食いしん坊です。ファンがいます、野良猫ではありません、飼い猫の活動エリア中のおやつです。セセの特技は、なんといっても、イビキです。飼い主もイビキをしますが、本人が起きているのに、イビキが聞こえる誰だ、気がつけばセセでした。ビックリしました。

都連理事 大山 竹彦

つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。